

2014年10月10日

2015年5月期 第1四半期 決算概要

- エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)、ブレース&サーチ(人材紹介)等が増収となり、売上高は58,727百万円(前年同期比+14.7%)
- 連結納税への移行に伴い、対象子会社は当期から決算期を3月から5月に変更し、当第1四半期に5ヶ月分の業績を計上
- 売上総利益は、前年同期は再就職決定が前倒して進んだことから利益貢献の大きかったアウトブレースメント(再就職支援)のマイナスを、エキスパートサービスやブレース&サーチの増収で吸収
- M&A や変則決算の影響に加え、既存事業成長のための人的投資等を実施したことから販管費が増加
- 営業利益は320百万円(△61.6%)、経常利益は286百万円(△64.2%)と大幅な減益
- 四半期純損失は253百万円となったものの、概ね計画通りに推移

1. 第1四半期連結業績 (2014年6月1日~8月31日)

(百万円)

	2014年5月期	2015年5月期	増減	増減率
売上高	51,212	58,727	+7,515	+14.7%
売上総利益 (売上比)	10,032 19.6%	11,450 19.5%	+1,417 △0.1pt	+14.1%
販売費及び一般管理費 (売上比)	9,197 18.0%	11,130 19.0%	+1,932 +1.0pt	+21.0%
営業利益 (売上比)	834 1.6%	320 0.5%	△514 △1.1pt	△61.6%
経常利益 (売上比)	798 1.6%	286 0.5%	△512 △1.1pt	△64.2%
税金等調整前四半期純利益 (売上比)	778 1.5%	272 0.5%	△506 △1.0pt	△65.1%
四半期純損益 (売上比)	103 0.2%	△253 -	△356 -	-
1株当たり四半期純損益	2円76銭	△6円87銭	△9円63銭	-

2. セグメント別連結業績 (セグメント間取引消去前)

(百万円)

	売上高	前年同期比	営業損益	前年同期比
HRソリューション	57,266	+12.8%	1,380	△23.2%
エキスパートサービス(人材派遣) インソーシング(委託・請負)他	50,230	+16.4%	779	+19.2%
エキスパートサービス(人材派遣)	35,211	+13.0%	779	+19.2%
インソーシング(委託・請負)	11,372	+21.9%		
HRコンサルティング、教育・研修他	1,356	+33.8%		
ブレース&サーチ(人材紹介)	1,201	+57.6%		
グローバルソーシング(海外人材サービス)	1,088	+25.6%		
アウトブレースメント(再就職支援)	2,184	△28.6%	28	△95.4%
アウトソーシング	4,852	+6.6%	572	+8.0%
ライフソリューション パブリックソリューション シェアード	1,926	+61.3%	△58	-
消去又は全社	△465	-	△1,001	-
合計	58,727	+14.7%	320	△61.6%

●セグメント別業績

※()内は前年同期比

HRソリューション

エキスパートサービス(人材派遣)、インソーシング(委託・請負)他

売上高 50,230 百万円(+16.4%) 営業利益 779 百万円(+19.2%)

[エキスパートサービス]

売上高 35,211 百万円(+13.0%)

- 景気改善や派遣需要の回復から幅広い業界で受注が増加すると共に、規制強化による派遣職種の適正化影響も一巡し、増収
- 職種別では、クラリカルや IT エンジニアリング分野が堅調に推移。当期から医療関連人材サービスを提供する(株)メディカルアソシアが寄与していることに加えて、育成型派遣が奏功したことにより金融事務や貿易事務、英文事務などの外国語関連業務が好調となり、テクニカル分野が大幅に伸長

[インソーシング]

売上高 11,372 百万円(+21.9%)

- 民間企業で実績が評価され、BPR(ビジネスプロセス・リエンジニアリング)等を切り口とした案件が増加
- IT・クラウドと人材を併せた付加価値の高い提案を推進すると共に、社内でも運用手法の改善や、ITを活用したノウハウ共有を迅速化することで、プロジェクトマネジメント力が向上
- 自治体等のパブリック分野においても行政事務代行の受託が大きく伸長
- 2015年4月に総務業務アウトソーシング事業を展開するパナソニックビジネスサービス(株)の子会社化を予定。同社のノウハウと当社グループのBPO事業の実績と人材供給力を活かし、新しい事業の柱として更なる成長を目指す

[HRコンサルティング、教育・研修他]

売上高 1,356 百万円(+33.8%)

- 「Jプレゼンスアカデミー」を運営するキャプラン(株)を中心にグループ全体で教育・研修事業を強化
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えた国際化を軸に「外国語」と「おもてなし」を融合した当社グループならではの研修ニーズも増加
- 大企業を中心に人材をグローバルに一元管理するニーズが高まっていることから、キャプランが導入、コンサルティングを実施しているタレントマネジメントシステム(サクセスファクターズ)^{*}の導入企業およびユーザー数も増加

※従業員スキル・経験等の可視化と評価の一元管理を可能にして企業の人材活用・育成を支援する SAP グループの HR システム

[プレース&サーチ(人材紹介)]

売上高 1,201 百万円(+57.6%)

- 企業の採用意欲は引き続き旺盛で、メーカーや IT・通信をはじめ幅広い業界で求人が増加
- 求人増加に対応して Web やスマートフォン経由のエントリー施策を強化して登録を促進したほか、顧客開拓や求職者フォローに注力
- 前期に優秀なキャリアコンサルタントを育成、確保するなど人的投資を行ったことが奏功し、ボリュームゾーンの若年層から中堅・管理職層にまで決定者層が広がる
- 成約単価の上昇に加えて、生産性やサービス品質の向上を目指す取り組みの効果が上がる

[グローバルソーシング(海外人材サービス)]

売上高 1,088 百万円(+25.6%)

- 北米や ASEAN における日系企業の人材需要は引き続き堅調に推移し、人材派遣・紹介からアウトソーシングまでクロスボーダーで幅広いサービスを提供できることが競争力に繋がり、全カテゴリーで増収
- 人材紹介では提案営業を強化したことにより中国、シンガポール、台湾等で伸長したほか、人材派遣も大口顧客の開拓や成功事例の横展開が奏功して北米、台湾、インドなどで稼働者が増加
- アウトソーシングにおいても、北米や中国などで駐在員の経費可視化やコア業務への集中等のニーズが高まり、給与計算代行等が増加

セグメントの売上高は増収。エキスパートサービスの増収影響に加えて、インソーシングのプロジェクトマネジメント力の向上により粗利率が上昇し、全体の売上総利益を押し上げ。M&A や変則決算で販管費が増加したほか、プレース&サーチでコンサルタントを増員、グローバルソーシングでも現地スタッフ増員やオフィス増床などの先行投資を行ったが、営業利益も増益

アウトプレースメント(再就職支援) 売上高 2,184 百万円 (△28.6%) 営業利益 28 百万円 (△95.4%)

- 景気回復により企業の雇用調整が大幅に減少し、案件規模も小型化したことにより、減収
- きめ細かいキャリアカウンセリングや新規求人開拓に注力してサービス品質を高め、再就職決定の早期化を進めたほか、拠点と営業競争力を維持しつつコストの最適化にも努めたが、大幅な減益

アウトソーシング 売上高 4,852 百万円 (+6.6%) 営業利益 572 百万円 (+8.0%)

- 主力の福利厚生事業は提案営業を積極的に行い、中堅・中小企業の開拓にも注力した結果、会員が順調に増加
- 報奨金等をポイント化して管理・運営するインセンティブ事業も堅調に推移
- 取引先と協働で個人顧客向けサービスを展開するパーソナル事業においても会員が順調に増加

ライフソリューション、パブリックソリューション、シェアード

売上高 1,926 百万円 (+61.3%) 営業損失 △58 百万円 (前年同期は営業損失△19 百万円)

- ライフソリューションは、保育関連事業を展開する(株)パソナフォスターで大型保育施設の受託が増加したことに加えて、2013年5月に当セグメントに加わった介護関連事業の(株)パソナライフケアにおいてはデイサービス施設の新規オープンが続く
- 一部の会社で変則決算となった影響もあって大幅な増収。一方、利益面ではパソナライフケアの積極的な出店に伴う先行投資が膨らんだことなどもあり、営業損失

消去又は全社 売上高 △465 百万円 営業利益 △1,001 百万円

- グループ間取引と持株会社(株)パソナグループの販管費を含む

3. 財政の状況

(百万円)

	2014年5月期 期末	2015年5月期 1Q末	前期末比		増減要因
			増減	増減率	
流動資産	48,545	44,843	△3,702	△7.6%	現金及び預金の減少 3,753 百万円、 受取手形及び売掛金の減少 506 百万円等
固定資産	27,069	27,334	+264	+1.0%	
資産合計	75,615	72,178	△3,437	△4.5%	
流動負債	36,967	35,035	△1,931	△5.2%	買掛金の減少 1,316 百万円、 賞与引当金の減少 835 百万円、 未払法人税等の減少 751 百万円等
固定負債	11,467	10,793	△673	△5.9%	
負債合計	48,434	45,829	△2,605	△5.4%	
純資産合計	27,181	26,349	△832	△3.1%	四半期純損失 253 百万円、 配当金の支払 374 百万円、 少数株主持分の減少 249 百万円等
自己資本比率	27.9%	28.4%	+0.5pt		

4. 2015年5月期(2014年6月1日～2015年5月31日) 連結業績予想

当四半期の業績は概ね計画通りに推移していることから、2014年7月11日に公表した業績予想を据え置きます。

(百万円)

	通期	前期比	上期	前年同期比	上期進捗率	下期	前年同期比
売上高	232,000	+11.2%	115,500	+12.6%	50.8%	116,500	+9.9%
営業利益	3,550	+10.6%	650	△37.4%	49.3%	2,900	+33.5%
経常利益	3,550	+13.2%	650	△32.4%	44.0%	2,900	+33.4%
当期純利益	600	+14.0%	△350	—	—	950	+72.3%

四半期ごとの連結業績およびセグメント別業績データは <http://www.pasonagroup.co.jp/ir/data/quarter.html> に掲載します。

本資料記載の将来に関する記述の部分は資料作成時において当社が各種情報により判断した将来情報であり、その内容を当社として保証するものではありません。予想数字等は今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、投資家ご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。